

## 資料紹介 『大磯旅行記』

\* 佐川和裕・加藤廣美 \*

本資料は、平成三年度から進めている大磯町史編纂作業の過程で確認されたものである。資料は冊子形態で、学習院大学史料館において「奥州棚倉藩阿部家文書」の中の一資料として管理されている。

さて、本資料は、明治三十年（一八九七）に、当時華族であった阿部正功氏によって書かれたものである。同氏は奥州棚倉藩主を務めた人物で、麻布霞町にあった棚倉藩下屋敷を明治以降も私邸としていたという。なお、麻布霞町は、現在の東京都港区西麻布一丁目、三丁目、および六本木七丁目にあたる広大な土地で、後の住宅地開発において大きな役割を果たしている(1)。

本資料の内容は、阿部氏が、夏季に家族とともに大磯において滞在した際の記録である。凡そ二〇頁にもおよぶ同書の構成は大きく二つに分けられる。前半は大磯滞在中の行動を日記的に書いたものである。大磯に滞在することになった理由と共に、明治三十年七月二十八日から八月三十日に麻布霞町へ帰宅するまでの行動が網羅されており、大磯を拠点に酒匂、二宮、国府津、松田、山北方面にまで足をのびしている様子もうかがわれる。

また、後半は、「学術上取調記事」「小磯地内視察」「松田山北地方視察」「小磯村之土俗視察」「漁夫ノ酒宴」「高麗村視察」「サイトバラ井」并ニ「ヤンノヲッコ」ノ事」「酒匂附近土俗視察」「大磯盆踊視察」「海濱ニ於ル視察」「小磯村土俗再調査」「大磯土俗ノ概略」といった見出しが付されており、前半の行動記録に対応しつつ、実際の取材内容を問答形式にまとめたものである。問答の表記はパターン化されているものの、要旨は十分におさえられている。

筆者の阿部氏は、概して考古学的な知識と興味が強かったようで、「円石」「オモリ石」「クホミ石」「ミガキ石」と自らが表現している石の存在を、「石世期」の遺物と絡めて盛んに気にとめている。また、土器散在地や塚（古墳）の描写も多く、現在では概に確認できないものや、これまで記録として表れなかった古墳などが記されていることは本書の大きな魅力となっている(2)。一方で、「土俗」という表現が多用されているように、民俗学的な分野にも興味を抱いていたようで、盛んに農漁民からの聞き取り調査をおこなっている。衣食住にかかわる内容はもちろん、漁具や漁法、船などの聞き書きは興味深い。特に「漁夫

ノ酒宴」では、その状況を事細かに観察して描写し、さらには聞き取りによる内容が補充されている点の特筆される。これらもまた現状では聞き取ることでできない事象も少なくない。なかでも「大磯盆踊視察」の記載は最たるものであろう。

さて、全体を通しての特徴をいくつか挙げておきたい。まず一点めは、聞き取り調査をした話者の姓名を記していることである。また、たとえ姓名の記録が無くとも、かなり詳細に状況を描写しているため、調査に立ち寄った家の特定さえも可能な部分が見られることに驚かされる。二点めは、さまざまな調査対象に対して、多くの場合に現地での呼び名を確認していることである。筆者自身の表現と、地元における呼称との書き分けを意識している点が認められる。三点めは、聞き取り調査や実見した様子を、「参考ノ料」とするたみに、かなり頻繁に図を描いていることである。これらによって、現存している資料との比較が容易となり、結論として十分に信頼のおける記述であることが判断される。まさに民俗誌としてはもちろん、民具誌としても極めて質の高いものといえるだろう。

ところで、記載されている事象については、既に聞き取り調査や当館収蔵資料との比較を通して確認作業を進めており、あらためて本資料の有用性が明らかになりつつある。しかし、本稿ではあくまでも資料紹介が大きな目的であり、また、全文を掲載するだけの紙幅もないため、前半の日記部分を省略し、「学術上取調記事」以降を掲載するにとどまっている。全文の紹介ならびに記述内容についての細かな考察は、別の機会に報告したいと考えている。なお、本文中には一部不適切な表現もあるが、もとより差別について正しい歴史認識を得た中で、差別解消を目指した所以であることをおことわりしておきたい。

最後に、本稿を執筆するにあたり、『大磯旅行記』の利用についてご快諾くださいました阿部正靖氏、ならびに学習院大学史料館に対しまして厚く御礼申し上げます。

### 【註】

(1) 加藤仁美「大名屋敷跡地の住宅地形成―麻布霞町の場合―」『江戸東京学への招待(2)』一九九五年 日本放送出版協会

(2) 佐川和裕「大磯町域の「塚」―記録と伝承―」『十三塚 運動公園建設予定地内における埋蔵文化財発掘調査の記録Ⅰ』大磯町文化財調査報告書第44集 二〇〇一年 大磯町教育委員会

(\*当館学芸員 \*\*当館臨時職員)

明治三十年七月二十八日ヨリ八月三十日マデ大磯町ニ滞在申向地及ビ附近ニ於テ  
取調タル件ヲ左ニ集録セシム  
七月二十八日能坂録太郎ノ問答左ノ通

問 近傍ニ塚アルヤ

答 大磯地内宇戰場平(俗ニ「センヂヤウジキ」ト云)ニ塚アリ其他諸処ニアリ

問 先年百足屋ニテ横穴ヨリ出タル土器ヲ覽シガ今ニ保存スルヤ

答 百足屋ニテハ鄭重ニ詠器ヲ保存ス

問 詠器ヲ掘出セル際横穴ノ状態ハ奈何ナリシヤ

答 詠穴ハ予カ所有地ニシテ附近ヲ開墾セントスルニ遇候掘出シニテ穴内ニハ土器  
刀剣人骨等アツテ土間ニハ小石ヲ敷アリシ

問 穴内ノ状況ハ奈何ナリシヤ

答 上中下ノ三段ニ分レ上段ニハ人骨一體アツテ枕元ニ土壺三個アリ中段ニモ同シク  
人骨一體アツテ枕元ニ土壺三個アリ刀剣ハ上段ニアリ下段ハ入口ノ室ニシテ何モ  
無カリシ但シ此穴ノ略圖ヲ表セハ左ノ如ク

〈図省略〉

午後台町ニ於テ民舎ヲ入口鴨居ニ抱瘡除ノモノアレバ之ヲ求メ次ニ或ル民舎ノ  
入口鴨居ニ「シヤモチ」ノ針付ニセラルヲ見ル之ヲ質スニ虫齒ノ「マヂナイ」ト荅フ

〈図省略〉

二十九日午前大磯西端畑地ニ於テ農夫トノ問答左ノ通

問 此辺ノ畑地ニ古塚アリヤ

答 小磯地内宇「シヨウジヨウガイ」ト云ヘル畑ニ塚三個アリ口碑ニ因レバ昔ノ戦争  
アツテ当時ノ戦死人ヲ葬リシ処ト云ヒ傳フ

三十一日南下町尾崎吉五郎ヲ訪ヒ漁具ヲ一覽シテ漁法ノ説明ヲ聽ク左ノ通

張リ網

イシモチ(魚名) カマクラエビ(魚名) 等ヲ漁獲スルニハ方言イシモチ網又ハ海老網  
ト称スル網ヲ海中ニ張り置キ泳キ来テ自ラ網目ニ挟マル仕掛タリ

此網ノ上端ニ浮木ヲ付ケテ浪間ニ浮ハシ下端ニ「オモリ」ヲ付テ網目ヲ水中ニ直立セ  
シム但シ此網ハ一魚(仮令イシモチ)ヲ獲ルニ適スレド他魚ヲ獲ル能ハズ(第七圖)

方言「ピシ」ヅリ

此具ハ鱒、鯖ヲ漁スルモノニテ圖(第二圖)ノ如ク銅線ヲ二筋並曲シ上端ニ「ダグリ糸」  
ヲ結ビ付ケ中程ニ小網袋ヲツルシ下端ニハ鉛ノ「オモリ」ヲ付ケ銅線ノ曲レル末端ニ

ハ「テクス」糸ヲ結付ケ其末ニ鉤アリ但シ中程ノ網袋ニ餌ヲ入ル此袋ノ側ニ一寸位ニ切

タル藁莖ヲ結ビシハ鰻除ノ為ナリ何トナレバ藁ハ詠魚ニトリテハ毒物ナルニ因ル故ニ此  
藁ナキハ鰻ニ嚙切ラル患アリ

餌ノ種類

中程ノ小網袋ニハ「シラス」(白魚)ヲ入レ鉤ニハ鰻 又ハ細目ニ切タル鯖鱒ノ「トモエバ」ヲ用

ユ

釣ノ用法

數百尋ノ「タグリ」糸ニテ海底迄垂下セシメ漁夫指先ニテ「コツク」ヤ網袋ノ目ヨリ

小サキ白魚コボレバ魚泳キ来テ喰フ之ヲ「ステエバ」一名集メ餌ト称ススリ「コツク」

毎ニ鉤ニ刺セル餌モ自動スルヨリ魚ノ喰フ仕掛ナリ

方言ムツツリ

此具ハ圖(第三圖)ノ如ク割竹ヲ弓形ニ曲ケ其中程ニハ絃ノ如ク麻糸ヲ張り割竹ノ

両端ニ細キ麻糸ノ「ワツカ」ヲ付ケ之ニ竹緒ヲ貫キテ割竹ノ平均ヲ保タシメ「ワツカ」

ニ丈ケ三四尺ノ「テクス」ヲ付ケ其末ニ「アギ」ナキ鉤アリ此具ヲ魚名天秤ト称シ其

中程ニ圖ノ如キ「オモリ」石ヲ糸ニテツルシ石ノ配置ハ二段ニシテ之ヲカラゲシ数條ノ

糸末ヲ縛リ付ケ之ニ三百七十ヒロノ手繩ヲ結ビ付ケ尤モ「オモリ」石ヲ縛スルニ

秘術アリ

餌ノ種類  
鱒ヲ釣ルニハ期節ニ從ヒテ餌ヲ別ニス乃チ「ユウシ」「キワダマグロ」「イカ」等ハ全

体ヲ鉤ニ刺シ又ハ細ク刻ミテ刺セリ

用法

鱒ハ潮ノ温度ニ因リテ海中ノ住処ヲ移セルモノナレバ寒中ハ深底ニ遊泳シ

春秋ノ頃ハ中底ニ夏ハ浅処ニ居ル尤モ性来海底ノ險崖ヲ好ミテ浮沈ス

ルナレバ詠魚ヲ漁スルハ頗ル熟練ヲ用スルニテ乃チ「タグリ」糸ヲ傳フテ

「ゴツリ」ト響ケバ曳上ルナレド深底ヨリ「タグル」ナレバ容易ノ業ニアラス之レ又

タ手釣ニシテ指先ノ「コツ」ニ係レリ

方言オツメ

方言「ラヅメ」ト称スルハ手釣(主トシテ鱒釣ニ用ユ)ニ用ユル要具ニシテ第四圖ノ如キ

形チヲナス之ヲ製造スルニハ方言ミヅウサ(ミツキナリ)ト云ヘル木ヲ五六寸位ノ丸

切ニナシ外皮ヲ剥ギテ摩キ上テ腹部ニ鉄線ノ足(三寸位ノモノ)二本ヲ付ケシ  
モノテ漁時ニ臨ミ舟ニ端ニ足ヲ打込釣糸ヲ懸ケ置キ「タグル」ヲ速助セシム所  
謂滑車ノ代用物ニシテ之レナキハ深底ヨリ釣り上ル難シ

〈図省略〉  
偽像漁具

方言「バカヅナ」ハ第五圖ノ如ク小鯉ヲ像トルモノニテ頭部ハ鉛ヲ用ヒ眼球ハ糸  
ノ結ビ目ニシテ其末ヲ口ヨリ吐キ出サシムルハ手繩ヲ付ル為ナリ体ハ魚度ヲ以テ  
袋ノ如ク縫ヒ(細糸)合セ鉤ハ頭部ヨリ袋ノ内側ヲ潜リテ腹部ニ突き出タリ但  
シ魚皮ハ「フゲ」ノ皮ナリ

方言「イカヅノ」ハ第六圖ノ如ク烏賊ヲ像トルモノニテ全身ハ鹿角ニテ作り眼ハ  
細糸ノ結ビ目ニシテ鼻ヨリ其末ヲ出サシメ之ニ手繩ヲ付タルナリ体ノ下部  
ニ数本ノ針金ヲ挿シ込ミタルヲ麻ニテカラゲ其末ヲ曲ゲテ鉤トスルハ烏賊ノ手  
足ニ形トルナリ

方言「バツメ」(馬爪)ハ第七圖ノ如ク大鯉ヲ像トルモノニテ体ハ馬ノ爪ヲ削リテ作  
リ上端ノ切口ヨリ側面ニ孔ヲ明ケ三尺位ノ麻糸ヲ通セルハ竿ニ結フ為メニシテ  
体ノ底ニ針金ノ鉤ヲ挿シ込ミ之ヲ蔽被スルニ烏毛ヲ似テス

用法  
是等ノ偽像鉤ハ松魚ヲ釣ル用具ニシテ其仕法タル鉤ノ口糸ニ長サニヒロ位ノ  
麻糸ヲ付ケ其末ヲ二間半乃至三間位ノ竿ニ結ビ付ケ之ヲ携ヘ漁夫海上ニテ

松魚ノ浮泳ヲ認ムルヤ舟ヲ漕キ寄セ餌(鱒)ヲ投シ其争ヒ喰フヲ度トシテ偽像ノ  
鉤ヲ投下シ竿ニテカキマワスヤ詠魚ハ偽餌ト本餌ヲ辨マエズ喰フヤ釣ラル、ナリ

南下町酒屋ニテ漁夫力蔵トノ問答左ノ如ク  
問 海濱ニアル丸太ノ井桁ハ何ニ用ユルヤ

答 夫ハ方言「スラ」ト称シ舟ヲ海上ニ降スハ又夕海上ヨリ揚タル片砂上ニ据ヘ其上ニ舟  
ヲ載セテラシ搬フ具ニシテ滑車ノ代用ヲナス此ハ八圖(第一圖)ノ如ク井字形ニ丸

太ヲ組ミ合セタルモノニテ縦ノ二本ハ松ヲ用ヒ横ハ方言「サルタ」ト称ス木ヲ使フ此木  
ハ函根山中ヨリ切出セルモノニテ当地ニテ「サルタ」ト称ス乃チ「サルスベリ」ナリ

問 当地ニテ漁民初釣魚ヲ神社ニ納ムルアリヤ

答 漁民沖ニテ獲シ初釣魚ヲ帰帆後高麗神社ノ社壇ヘ奉納セシム尤モ一艘ニ付一  
尾ヲ限ル但シ小魚ハ全身ノ儘ヲ圖(第一圖)ノ如ク口ヨリ「アギ」ヘ繩ヲ貫キ、大魚ハ

運搬ニ不便ナレバ口中ニアル方言「ホシ」ト称スル部分ヲ切りテ棒ク(此「ホシ」ト云ヘルハ魚ノ

心臓ナリ)

心臓ナリ

問 魚ヲ神前ヘ供フルハ唱言アレバ大意ヲ口演アリタシ  
唱言ノ大意ヲ述レバ「斯ル良魚ヲ授ケ玉フヲ難有存ジマス此後チモ沢山ニ大魚アラ  
ン様祈リマス」

問 当濱ニテ使フ「モリ」ハ奈何ナル製作ニシテ漁時ハ奈何ニ投下シ之ヲ以テ獲スル魚  
ノ種類ハ何魚ナルヤ

答 當濱ニテ用ユ「モリ」ノ製作ニ於ル柄ハ樫ノ木ニテ丈ケニヒロ位ヲ普通トシ其両端ハ  
尖リテ漁時ニハ一端ニ鉄ノ矢尻ヲ付ク之ニ手繩ヲ結ビ柄ニカラゲ其餘ハ巻キ置  
クモノニテ此繩ハ麻ヲ撚リシモノニシテ長サ三百五十ヒロ位アリ全体ノ形ハ圖ニ

示スガ如ク(第三圖)此器概ヲ海上ニテ使フ方法タル先ツ魚ノ浮泳ヲ認ルヤ舟  
ヲ漕キ寄セ五六間ヲ度合トシテ投スルモノナレド魚ノ種類ニ從ヒ或ハ前面ヨリ  
シ或ハ側面ヨリシ又ハ尾ノ方ヨリス尤モ「モリ」ヲ投スル人ハ舟ノ舳ニ立チ左足ヲ踏張

リ右足ニテヲ支ヘ恰モ鎗ヲ操スル身構ニシテ右手ニテ「モリ」ノ下端ヲツカミ左手  
ニテ柄ノ中程ヲ握リ頭上ニ棒ケ下端ヲ高フシテ矢先ヲ少ク下ケ度合ヲ測リテ投  
ズ此械ニテ獲ル魚ハ「マゲロ」「サワラ」「カ子ウチ」「シモクザメ」等ナリ

問 釣針所有ナレバ讓受タシ

答 容易ノナレバ進呈セント答ヘ懐ヨリ數個ヲ出シ授ク(馬爪一、バカヅナ二)

問 釣針所有ナレバ讓受タシ

答 容易ノナレバ進呈セント答ヘ懐ヨリ數個ヲ出シ授ク(馬爪一、バカヅナ二)

問 「モリ」并ニ釣針ハ何者ノ作ナリヤ

答 「モリ」ノ柄ハ樫屋ノ作ニシテ矢先ハ鍛冶工ノ作ナリ釣針ノ種類ハ多ケレド皆ナ漁夫  
ノ自作タリ

問 常食物割合ハ奈何

答 吾輩ハ一日三回ノ食事ニシテ「朝ハ飯、汁」「晝ハ飯、肴、野菜」「夕ハ飯、汁、香物」常飯  
割合ハ白米六合ニ引割麥四合ノ割合ナリ

問 平日魚ハ奈何ニシテ獲ルヤ

答 此魚ヲ獲ルニハ方言「ハヒナウ」ト称スル數十ヒロノ麻繩ニ鉤ヲ付ケ「ドヂヤウ」ヲ餌  
トシ「オモリ」石ヲ付テ海ニ流シ釣ルナリ

小磯地内視察  
三十一日午後寓舎ヲ出テ大磯西隅松本別荘前ヲ過レバ右傍山麓ニ神社アリ參拜  
セント表鳥居ノ礎ニ近ケバ地上ニ石アリ形チ凹石ニ似タレバ之ヲ拾ヒ驗スルニ眞物ナルニヨ

リ(圖ノ如ク)懐ニ納メ石階ヲ登テ神殿ヲ拝スルニ正面ニ御嶽神社ト書セル扁額ヲ掲ケラル偶扉ヲ覽ルニ「松カサ」ヲ糸ニテク、リ數十個ヲ連結シテ格子ニ懸ラルハ祈ノ為ナラム參拜ノ後チ社地ヲ去リ吉松病院前ノ畑道ニ至レバ農夫ニ逢フ仍チ「松カサ」ノ故ヲ問フ彼レ曰ク「此松「カサ」ハ信者ノ奉納ニシテ其故ハ梅毒患者全快ヲ祈ル為ナリ」ト苦笑ス之ヨリ畑道ヲ西歩シ小流ヲ渡テ小磯ノ畑ニ達シ尚ホ西行セバ夏作物繁リテ土器破片ノ散布ヲ見付ケ難シ更ニ畑中ヲ歩テ西南ノ方數十間行ケバ畑中ニ塚アリ

其構造ヲ視ルニ稍々完全ノ形ヲ存レド周圍ハ耕耘ノ為ノ鋤崩セラレ内部ノ物質ヲ露出セシム此塚ハ高サ五尺許ニテ縦横ノ直径七尺許凹塚ニシテ形ヲ圖ノ如ク其積層ヲ驗スルニ表面ハ土ヲ盛被スレド内部ハ小石ヲ以テ積上タレバ所謂石塚ナリ又夕近傍ニ

一三ノ塚アリ是等ノ塚ヲ視テ作物対上ノ畑ニ至レバ細末ニ碎カレシ土器破片ノ散布スルヲ認ム之ヲ拾ヒ驗スレバ祝部土器ノ破片ニシテ一種アリ乃チ一ツハ淺口色、一ツハ赤色ナリ是ヨリ東方ヘ赴クニ畦道及ヒ畑地ニハ夥多ノ土器片散布ス小字「オホシユウガイ」ノ畑ニ至リ耕耘ノ農夫ニ逢フテ小磯村民ノ食事回数并ニ常食物ヲ尋ヌニ左ノ答ヲ得タ

リ「食事回数」「朝ハ六時」「晝ハ十一時」「夕ハ七時」又夕間食ハ午後二時ニ食フ、常飯ハ混炊飯ニシテ白米五合ト引割麦ノ五合ヲ合セテ一升ニ充ス以上ノ如ク視察終テ寓舎ニ歸ル

〈図省略〉

八月一日午前南丁町尾崎磯五郎(人呼テ異名ヲ「ミヂン」ト称ス)ヲ訪ヒ漁具ヲ譲受リ左ノ品々ナリ乃チ「キス魚釣具、ムツ魚釣オモリ石」

〈図省略〉

問 「キス」魚ヲ釣ルハ奈何ニスルヤ

答 「キス」魚ヲ釣ルハ数寸ヒロノ手繩ヲ付ケ海中ニ垂レ手釣ニシテ蛸肉ヲ餌トス

問 「ムツ」釣りオモリ石、キス釣り「オモリ石」ヲ麻糸ニテ縛ルニ法アリヤ

答 惣テ「オモリ石」及ヒ釣竿等ヲ麻糸ニテ縛ルニ一定ノ秘術アリ

斯ク磯五郎ト對話ノ刻壯夫側ニテ話柄ヲ聴キ居ルニ付キ同人ニ對シ問答スル左ノ如ク

問 出帆帰帆ノ時刻ハ奈何ナルヤ

答 当濱ニテハ一番鶏(鶏鳴ヲ云フ)ニ起床シテ出漁ノ用意ニ掛リ一番鳥ニ舟ヲ出シ

夕刻帰帆ノ定ナレド漁獲ノ多寡ニヨリ夜半ニ迄ニ帰帆スルアリ

問 海上ニテ篝火ヲ焚スル奈何ナル器ヲ用ユルヤ

答 夜中海上ニテ篝火ヲ焚スルニハ鉄ノ「サデ」(圖ノ如シ)ヲ舟ナバタニ挿シ薪ヲ積ミテ火

ヲ点ゼシム

問 海上漁時ノ着服ハ奈何ナルヤ

答 春ヨリ秋迄テハ裸体ニシテ種ヲ占メ冬ハ短衣又ハ腰褌ヲ着ス

尾崎方ヲ出テ北下町ヲ過ルニ漁家ノ入口ニ種々ノ祈禱物アリ乃チ

或ル家ノ鴨居ニハ「サモヂ」ヲ針付ニシ其表面ニ文字ヲ記人セシム

則チ上端ニ百日積一切無用下端ニハ本人ノ生年月何ノ誰トアリ

又タ或ル家ノ軒ニ蜻蛉草ヲツルスアリ或ル家ノ入口十間ニ幣束ヲ

建テリ是等ヲ覽テ長者町(俗ニ新地)ニ至リ漁夫力蔵ノ宅

ヲ訪フニ不在ナレバ上原金次郎ヲ訪ヒ漁具ヲ覽テ説明ヲ聴キ次

ニ珍奇ノ漁具數品ヲ讓受ケタリ左ニ其品目ヲ掲ケ注ニ説明ヲ

記入シ附ルニ漁具ノ略圖ヲ加ヘ説明ノ足ラザルヲ補フ

章魚釣針

此品ハ第一圖ノ如ク薄板ヲ削リ表面ニ凹石ヲ麻糸ニテ縛リ付ケ「オモリ」トシ裏面ニ

鉄線ヲ曲タル鉤ヲ麻糸ニテ結ヒ付ケ上端ニ糸ヲ縛リ之ニ數寸ヒロノ手繩ヲ付ケ餌

ニハ「ホラボ」魚ヲ用ユ

オツメ磨具

此品ハ第二圖ノ如キモノニシテ「オツメ」ヲ磨クニ用ユ之ハ方言「マコライザメ」ト称スル

魚ノ皮ニシテ其剥製法ハ生魚ノ頭ヲ切落シ次ニ皮ヲ尾ノ方ヘ生剥シ骨及ヒ肉ヲ

除キテ後チ剥皮ヲ清水ニテ洗ヒ上ケ適宜ニ薬ヲ束テ之ヲ「シン」トシテ剥皮ヲ被ラシム

〈図省略〉

角鉤

此品ハ第三圖ノ如ク鹿角ヲ筒形ニ削レルモノニシテ上端ノ切口ヨリ側面ノ上部ヘ孔ヲ

貫キ之ニ四五尺ノ麻繩ヲ通シ二尺許ノ間ハ銅線ヲ巻ケルハ魚ノ喰ヒ切ラザル為

メ下端ノ切口中央ニ針金ヲ挿シ其末ヲ曲テ釣ニ充タシ之ヲ被フニ細ク短冊形ニ切り

タル魚皮數枚ヲ以テス(此皮ハフグノ皮ナリ)之ニテ釣レル魚ハマグロ、ブリ、サワラ、

メジ等ナリ

鉤ヲ作ルニ用ユ骨ノ種類

偽鉤ヲ作ル骨ニ別アリ乃チ獸類ニテハ鹿角、牛角、馬爪魚鱗ニテハ鯨、マルタ等

ノ骨ナリ

「バカツナ」ニ用ユ魚皮ノ種類及ヒ製法

「バカツナ」ニ用ユル魚類ハ「マビラメ」「ガンゾヲヒラメ」「赤目フグ」「コチ」「目赤フグ」等ニシ

テ之ヲ製作スルハ魚皮ヲ小刀ニテ薄ク剥キ指ニテ引キ延バシ半日程塩水ニ浸シ後テ  
二ツ割ノ竹ニ張り日光ニ晒シ乾シ上ケテ第四圖ノ如キ心臟形ニ切りテ縫ヒ合スナリ

〈図省略〉

「ハエナワ」ノ碇

「ハエナワ」トハ長サ數十ヒロノ麻繩ニ若干ノ鉤ヲ付ケタルモノニテ繩ノ末ニ圖(第  
五圖)ノ如キ碇ヲ結ヒ付ケ海中ニ流沈セシムルヤ魚菜テ喰フ仕掛ナリ此碇ハ削竹

ヲ鋏柄ノ如ク造リテ石ヲ麻糸ニテ縛レルナリ

「イカツ」

此品ハ圖(第六圖)ノ如ク木ヲ削リテ魚形ニ造リ口ノ部分ニ孔ヲ明ケテ鼻ニ似セ

「テグス」ヲ通シ其末ヲ輪ニ結ヒ手繩ヲ結ヒ付ケル為ニシ眼ハ赤サンゴ玉ヲ糸

ニテ留メ腹部ニ鉛片ヲ打込ミ「オモリ」トシ左右ノ脇腹ニ鳥ノ羽毛ヲ挿シ

ミ比礼ニ偽七尾ノ部分ハ針金ヲ数本打ち込ミ其末ヲ曲ケテ鉤トシ中間ハ

麻糸ニテ巻ケリ

〈図省略〉

讓受ノ品々ハ左ノ通

一 イカツ 一個

一 章魚釣具 壹個

一 バカツナ用ヒラメ皮 壹枚

一 ハイナワノ碇 壹挺

上原幸次郎方ヲ去テ松林館南方ノ畑道ニ至レバ右傍ニ墓地アツテ石灯塔ノ側ニ左ノ如  
キモノ建テアリ

〈図省略〉

之ヲ覽テ海濱ニ至リ砂原ヲ歩ムニ彼方は方ニ「スラ」アレバ其符号ヲ集寫セント

順次騰寫シテ左表ノ如キモノヲ得タリ是等ハ皆子舟主ノ記標ナルベシ

〈図省略〉

以上ノ諸件ヲ調査シテ十一時寓舎ニ歸リ午後海濱ニ赴キ取調ノ件ハ左ノ如ク

一 海浴場附近ノ砂上ニ小舟アレバ漁夫ニ用途ヲ尋ヌニ此舟ハ方言「タブ子」ト稱シ鮑採

集ノ際用ユル舟ナリト荅フ圖(第一圖)ノ如ク次ニ傍ヲ覽ルニ丸太ニ太繩ヲ以テ結ヒ付

タル石アリ此品ハ何用ニ使フヤト漁夫ニ尋ナバ之ハ鮑採リノ刻水面ニ浮ヘル具ナリ

ト荅フ又夕問ヒ曰ク此石ハ何処ニ得テ原形ノ儘方又ハ作エラ施セルモノナルカト尋ヌ

ニ漁夫曰ク海濱ニテ拾ヒ後子繩ノ「クビリ」目ノ部分タケ道具ヲ以テ「クビラシ」タルナリ

ト荅フ熟ラ此石ヲ覽ルニ其石質ト云ヒ其形ト云ヒ余力屢バ貝塚ヨリ拾ヒシ石器ニ類似ノ点  
アレバ漁夫ニ乞ヒ讓受ク圖(第一圖)ノ如シ

〈図省略〉

二日午後尾崎吉五郎ヲ訪ヒ再質問ヲナシ聞キ得タル件左ノ如シ

尾崎吉五郎述ベ曰ク当地ニ吾方如キ鮑採業ヲ營メル者數十人アリ斯業ヲ

為スニハ左ノ道具ヲ要ス

一 小舟ハ方言「タブ子」ト稱シ長サ九尺許リ巾三尺餘リ(形状前ニ出ス)

一 小舟ヲ漕クニ六七尺位ノ「ろ」一挺

一 碇ハ圖ノ如キモノニテ木ヲ以テ鋏ノ柄ノ如ク作り柄ノ中程ニ石ヲ繩ニテ縛リ「オモリ」

トシ柄ノ一端ニ繩ヲ結ヒテ「ワツカ」トシ之ニ數ヒロノ繩ヲ付ケ繩ノ一端ヲ舟縁ニ縛リ

置キ海中ニ投シ舟ノ浮動ヲ止メシム

一 浮ケ(一名浮木)ハ必用ノ要具ニシテ其製作タル丸太ヲ四尺許ニ切り圖(前ニ出ツ)

ノ如クニケ所ニ「ホゾ」ヲ穿チ之ニ太繩ヲ通シテ縛リ付ケ繩ハ丈ケ三尺位ニテ其末ニハ

圖(前ニ出ツ)ノ如キ丸石ヲ結ヒ付ケ「オモリ」トス此具ノ用ハ鮑採中息ヲ吐サルーナレ

バ半時間位ニハ必ス水面ニ浮ヒ出テ「浮ケ」ニ抱キ付テ息ヲ一ナルヨリ俗ニ「イキツキウ

ケ」ト稱ス尤モ此具ヲ投スル位地ハ鮑ノ居ル処ニシテ「オモリ」石ハ海底ニ沈ミ丸太ハ水

面ニ浮カビニ物ヲ連結セル繩ニ依リテ浮ヒ出ツルナリ充分息ヲ吸フテ再ヒ海中ニ泳

キ入ル故ニ斯具ナケレバ鮑業ヲ營ム能ハス

一 方言「カ子ペラ」ハ就中重用ノ品ニシテ鮑ヲ岩面ヨリ「ヘガス」ニ使フ尤モ此具ハ圖

ノ如キモノニテ柄ハ木ニシテ「ヘラ」ハ鉄ナリ但シ方言「ヘガス」ハ「ヘガス」ヲ云フ

一 網袋ハ麻又ハ藁及ヒ「シユロ」繩等ニテ編ミタルモノニシテ鮑ヲ入ル、ニ用ユ

一 鮑採業ヲ為スニハ裸体ニ褲ヲ占メ下腹ニ網袋ヲ縛リ付ケ手ニ「ヘラ」ヲ持チテ潜

水ノ一ナレド近來ハ眼金ヲ掛クルナリ之ハ眼球ヲ傷フトノ説起リテヨリノ一ナリ

一 採鮑中ノ状態ヲ述シテ陸地ヨリ一里以内ノ海面ニ漕キ出テ其棲息所ト想フ処ニ

舟ヲ留メ碇ヲ投下シ次テ「浮ケ」ヲ投シ舟ヨリ飛ヒ込ミ海底ニ潜リ軀ヲカガメ恰

尾崎方ヲ去リ海濱ニ赴クハ漁夫宅地ニ左ノ小祠アルヲ覽ルニ扉前ニ四石配置セ

ラル之レ何ノ為ナルヲ辨知セザレバ参考ノ料トシテ其眞影ヲ描寫セシム

〈図省略〉

四日熊坂氏來訪ニ付キ聞知ノ件左ノ通

同氏曰ク漁民ハ信同心深キヨリ宅地内ニ小祠ヲ鎮座シテ朝夕拜礼ヲ怠ラズ其  
祭神ハ稻荷及ヒ海神(俗ニ龍宮又ハ舟主ト稱ス)ニシテ平素祈禱祓除ヲ好ミ

種々ノ神符ヲ軒口并ニ神棚ニ奉安シ罹病ノ際ハ医薬ヲ用ヅシテ之レニ換ルニ神  
官(俗ニ云フ山伏ナリ)ノ説ヲ確信シテ祈禱祓除等ヲ受クルナリ

松田山北地方視察

六日晴午前十時十分大磯停車場ヲ發車シテ松田ニ向ヒ十一時松田二下車シテ停車場

ヲ出テ村道ニ至レバ左右へ通スル街路ニシテ所謂足柄路ナレバ左ハ関本ニ通シ右ハ秦野

ニ向フ右折東行村内ヲ一覽セバ左側ニ寺院アツテ山門脇ニ圖(第一圖)ノ如キ石祠アリ之

ヲ描寫シテ寺院脇ノ旅亭ニ休ヒ書飯ヲ喫シ後チ主人トノ問答左ノ通

問 足下ノ姓名ハ

答 屋号ヲ柏屋ト称シ姓名ハ高橋六郎兵衛

問 隣地ニアル寺院ハ何ント号スルヤ

答 延命寺

問 山門脇ノ石祠ハ何神ヲ祭りシヤ

答 彼ノ石祠ハ村民ノ尊信スル神ニシテ塞ノ神ナリ

問 当村地内ニ瓦片ノ出ル処アリヤ

答 村内字「ソシ」ト云ヘル地ヨリ瓦ト焼米ノ出ヅルアリ此処ハ往時松田某ノ城趾  
ニシテ村人俗ニ「ヂヤウヤマ」(城山)ト称ス

問 川狩ニ毒流ヲナスアリヤ

答 川狩ニ「タデ」イスタデ。タバコクキ等ヲ用ヒ駿河府中辺ニテハ「サンシヨ皮」灰  
等ヲ使シガ方今ハ禁ゼラル

高橋氏トノ對話ヲ終テ秦野道ヲ東歩シ小流ノ土橋ヲ渡テ右側ノ農家ニ入り老

婆ニ逢フテ運搬具ヲ一覽シ其用法ヲ聞知シタレバ其略圖(自第一圖迄第六圖)ヲ描寫

シ次ニ屋内ヲ覽レバ土間ノ一隅ニ妻女安座シテ草履ヲ作り其側ラニ二三個ノ凹石アリタ

レバ問答ヲ為ス左ノ通

問 此凹石ハ何用ニスルヤ

答 当村ニテハ「馬ノクツ」及ヒ「ワラヂ」ヲ磨スルニ用ユ

問 凹石中凹石ヲ熟視スルニ岩註石或ハ砂石又ハ堅石ノ自然ニ凹形ヲ為シタルナリ此家ヲ去

テ停車場ヘノ慢途右側ノ農家ニ入り屋内ヲ覽ルニ例ノ凹石ト「ナマコ」形ノ石アレバ當家

ノ主婦ニ質問スル左ノ如ク

問 此凹石ハ一般ニ使フルヤ

答 農家ニテ一般ニ使用ス

問 「ナマコ形」ノ石ハ何ニ用ユルヤ

答 此石ハ蘆又ハ俵ヲ編ムニ使フ「フンドン」ナリ

問 是等ノ石ハ何処ヨリ持チ来ルヤ

答 酒匂ノ河原ヨリ拾ヒ来テ使フナリ

此家ヲ去テ停車場前ノ茶屋ニ休フ爰ニ調査シタル運搬具及ヒ石器(第七圖第八圖)并

ニ石祠等ノ略圖ヲ左ニ載セ参考ノ料ニ備フ

(図省略)

午後一時四十五分松田ヲ發車シ一時山北ニ下車シテ停車場西方ノ農家ニ至リ老

翁ニ逢フテ問答シ得タル要件左ノ如シ

問 当村ニテ火手皿ヲ使用スルヤ

答 數年前迄ハ用シガ現今ハ廢セリ

問 此家ヲ去テ停車場北方ノ農家ニ赴キ主人ト問答スル左ノ如ク

問 所有ノ「スゞ竹」ハ何ニ使フヤ

答 箆及ヒ行李ヲ造ル料トナス

問 「スゞ竹」ノ実ヲ食物ニ代用スルアリヤ

答 当村ニテハ「スゞ竹」ヲ採リテ製造用ニ供スレド其実ヲ食セズ

問 當郡ノ僻村タル世附中山神繩ノ村況ハ奈何ナルヤ

答 小田原人ハ僻遠未開ノ様ニ嗜スレド當時ハ開ケテ往時ノ村俗ヲ失ヘリ

(當家及ヒ先ニ訪問ノ農家ニモ例ノ凹石アリシ) 此家ヲ去テ停車場脇ノ農家ニ至リ

砥石袋糞草履等ヲ買受ケ停車場ニ返リ四時山北ヲ發車シ同五十分大磯ニ下

車シテ寓舎ニ歸ル

本日視察セシ松田山北ノ村俗及ヒ豫察ノ遺跡ヲ左ニ逐録セシム

松田山北「村民ノ屋舎ハ約子葦葺ニシテ棟上ニ風防ノ為メ「シヤガ草」ヲ植ヘ特ニ農民

ノ住屋内構造ニ於ル其半部ハ床板張ノ住室ニシテ其半部ハ土間ニテ物置場トシ

「ユルリ」ハ住室ノ一隅ニ設ケラレ自在鍵ヲ垂下シ之ニ鍋ヲ懸ケ炊所トシ土間ノ天井ニハ家

鶏ノ「ツリ巢」ヲ設ケ土間ニハ自然石ヲ据ヘテ藁打台トス母屋ヲ離レテ物置舎アリ之

ハ宮城野辺ノモノト構造ヲ均フシ既モ又タ離レテ建ラレ掘立柱ノ葦葺ニテ三方ハ

「ツブシ竹」ヲ以テ壁ニ換ヘ正面ハ丸太二本ヲ横タヘ馬ノ逸出ヲ防ク床八十間ニシテ

青草ヲ敷キ食料兼寢蓐ニ充タス特書スベキハ現時石器ヲ使用ノ件ナリ

石時期ノ遺跡

本日往返ノ車窓ヨリ豫察スルニ曾我村切割附近ノ梅林ハ赤粘土ノ岡ナレバ其遺物

ヲ含蔵スベクト想ハレ又タ松田對岸ノ岡ニモ同シ地勢ヲ表ス

古墳所在地

本日往返ノ車窓ヨリ眺ムルニ大磯国府津当ハ約千平坦ノ岡ニシテ古墳散在シ特ニ  
多存ノ地ハ国府本郷附近ナリ

本日松田山北二村ニテ覽タル臺石(第九圖第十圖)及ヒ鷄巢(第十一圖)ノ略圖ヲ左ニ描寫ス  
(図省略)

小磯村之土俗視察

八月七日正午寓舎ヲ出テ大磯地内鴨立沢□□□□ヲ過ギ台町ノ西端ニ至レバ  
右側農家ノ軒下ニ凹石二個アリ倚テ談家ニ入り主人ト問答スル左ノ如ク

問 此石ハ何シナルヤ

答 神様ヘ奉納ノ石ナリ

問 此石ハ素ヨリ頂ヲ凹メルヤ

答 素ヨリナリ

問 答中子供戸外ニ居リシカ何ニ思ヒケン談石ニ寄りテ頻リニ頂ヘ砂ヲ盛り遊ブ予戸外  
ニ出テ子供ノ遊ヒヲ止メ談石ヲ執視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石世期遺物ノ凹石ニ類  
似ノ点ツレバ底裏ハ奈何シト談石ヲ手ニテ「オコシ」見レバ頂ト同シク凹メアリ之ヲ得  
ト欲シ傍觀ノ村人ニ持主ヲ尋子ハ町内共有ノ奉納ナレバ譲リ難シト答フ、松並木ヲ過  
キ西小磯村ノ東端ニ至レバ右側農家ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラル之ヲ見テ村ノ中央左  
側ノ農家ニ依ヒ立物ノ故ヲ尋ヌ老婆ノ答左ノ如シ

当村ニテ新佛(新葬ノ亡者ヲ指ス)アルキハ新ヒ益ヨリ三回忌ノ盆迄テ彼ノ立物ニ燈  
籠ヲ「ツルシ」供養トナス

此家ヲ出テ西歩シテ鎮守社ノ前ヲ過ギ行クニ左側ノ農家ニ老夫婦涼ミ居レバ彼レ

ニ付キ問答セバ聊カ土俗ヲ窺フヲ得ヘクト信シ談家ニ入テ一札シ老翁ト問答スル羽左ノ  
如ク

問 此辺ニテ長細キ石ヲ「オモリ」ニ使フヤ

答 其品ハ俵ヲ編ムモノニテ我家ニアリ

問 其石ヲ一覽イタシタシ

之ニ於テ翁物置所ヨリ持來テ予カ面前ノ土間ニ置キ左ノ答ヲナス

答 此石ハ海濱ヨリ搜シ來ルモノナレバ容易ニ得難シ

問 馬ノ「クツ」及ヒ草履ヲ磨クニ凹石ヲ用ユルヤ

答 当村ニテモ談石ヲ使ヘドモ所有セズ

問 磨石ハ何処ヨリ得ルヤ

答 之レ又タ海濱ヨリ拾ヒ來ル

問 当村ニテ食事回數時刻、常食物及ヒ間食ノ種類ハ奈何ナルヤ

答 朝晝夕ノ三回ニシテ朝ハ七時、晝ハ十二時、夕ハ八時、常食ハ粟米ノ混炊飯ニシ  
テ一升ニ付米二合半割麦又ハ粟八合ヲ混ス其献立ハ左ノ通

朝(飯、香物) 晝(魚、汁) 夕(飯、香物)

問 食ハ農事繁忙ノ際ニ限レバ期節ニ從ヒ食出ヲ異ニス村人俗ニ「茶ヲケ」ト唱

ヘ餅、フカシイモ(薩摩芋)、イモダンゴ(サツマイモヲ輪切ニシテ乾タルヲ白ニテ)等ナリ  
(粉ニシテダンゴニシタルモノ)

問 磨キ石及ヒ「オモリ」石ヲ讓受タシ

答 「オモリ」石二個ヲ進呈スベシ(圖ノ如シ)

之ニ於テ老翁ヨリ「オモリ」石ヲ得タレド磨キ石ヲ所望セバ彼レ隣家ヘ赴キ談石ヲ持參シタ  
レバ彼ラシテ所有主ニ讓受ヲ掛合メシニ進呈ノ由ヲ返報ス倚テ談石ヲ得タリ(圖ノ如シ)

問 紀念ノ為メ足下并ニ磨石所有主ノ姓名ヲ聞カン

答 予ハ渡辺齋兵衛ト申シ磨石所有主ハ中川甚七ト申ス

問 尚此他ニモ神佛等ハ石ヲ供フアリヤ

答 当村ニテハ各自ノ宅地内ニ稱荷ヲ祭り予カ宅地ニモ小祠ヲ安置シ石塊ヲ供フ  
之ニ倚テ小祠ヲ拜シ談石ヲ覽シト欲シ老翁ニ導カレ裏地ニ至レバ大樹ノ下ニ小祠アツテ石ヲ  
扉前ニ供ヘアリ(圖ノ如シ)

問 此石ハ何シト稱シ人エヲ加タルモノナルヤ

答 俗ニ「ゴリン石」ト云ヒ海濱ヨリ拾ヒ來ルモノナレバ敢テ人エヲ加ヘズ

此答言ヲ聞キ謂ラク俚俗「ゴリン石」ト唱フルハ所謂五輪石ノ轉訛ナレバ之レ五輪塔並石ノ海濱  
ニ流レ來ルモノナラント想ハル數回ノ問答を終テ渡辺方ヲ去リ再ヒ白丁ニ至リ過刻覽タル  
凹石ノ故ヲ詳カニ聞ント欲シ先ニ訪問セシ農家ノ裏方ニ赴ケバ石塊ヲ積ミ上ケタル頂ニ異  
様ノ石碑立チ其周辺ニハ數個ノ凹石羅列シアリ抑モ此碑ハ如何ナルモノカト側ノ表裏製造  
所ニ入テ壯夫ニ質問スル左ノ如ク

問 此碑ハ何シナルヤ

答 舍側ニ安置ノ碑ハ町内ノ塞ノ神ニシテ町民ノ崇敬厚シ

問 羅列ノ凹石ハ何ノ為ナルヤ

答 此石ハ町民ノ奉納物ナリ

問 答訖テ午後三時寓舎ニ帰ル(蓋シ此行ハ小磯村土俗ノ一部ヲ觀察シタリ)

本日視タルモノ并ニ讓受ノモノヲ左ニ描寫セシム

(図省略)

漁夫ノ酒宴

八日午前九時過寓舎ヲ出テ海水浴場ニ遊歩ノ途次北組ノ濱ヲ視ルニ平常ト異ナ  
ツテ旗ヲ建テ列ス漁舟數隻砂上ニアリ之レ何事ナラント彼方ヘ赴キケルニ漁夫ノ一群  
砂上ニ圍座シテ酒宴中ナレバ傍ヲノ堤ニ登テ其座状(圖ハ平面ノ位地ヲ表ス)ヲ描寫シ  
テ現場ニ至リ狀況ヲ覽ルニ約千左ノ如キ現況ヲ示ス乃チ之ヲ逐次列記セシム

一酒宴場ノ様タル波打際ノ砂上ニ漁舟一艘(三間許ヲ隔テ)並置セラレ各舟共纏ノ  
方ニ矢倉様ノモノアリテ大旗ヲ建テ舳ノ方ニ八竿ニ白キ小旗ヲ結ヒ付ケ舳端ニ横ヘ  
宴席ノ左右砂原ニ大ナル網ヲ擴ケ乾シ後方ニ八帆ヲ積ミ干シ其様ヤ恰モ天幕  
舎ノ如ク之レ又タ二間ヲ隔ツ舟、天幕形ノ帆、及ヒ網ヲ似テ圍メル中央ハ宴席ニシ  
テ筵ヲ敷キ列ラ子三方ニ漁夫列座シ一方ニ八舟主タルベキ商人二人濱手ヘ面シテ座  
シ斯ク環座セル宴席ニハ酒樽、徳利、皿肴木盃等散置シ殊ニ舟主ノ面前ニハ日録ヲ載  
セタル三方ヲ置キ今ヤ酒宴ノ最中ニテ娛樂ノ極点ニ近カラシカ彼輩ノ舉動ニ於ケル  
或ル者ハ杯ヲ手ニシテ鯨飲シ或ル者ハ酔イテ杯ヲ座前ニ置キ或ル者ハ肴ヲ喰ヒツ、或ル者  
ハ喫烟シ或ル者ハ談笑ス漁夫等ハ斯ル「体タラク」ニテアリケルニ舟主ト思ハル者ハ頻リニ  
懇話ヲナシ恰モ演説ノ如ナレバ漁夫ハ之ヲ謹聽ノ態ナリシ此宴場ニ列スル人々ノ軀装  
ヲ覽ルニ舟主ト思シキ者ハ各々蓋帽ヲ冠リ単衣ヲ着シ漁夫數十人ハ裸体ニシテ赤布ヲ  
冠リ或ハ鉢巻ニシ腰辺ニハ黄赤又ハ白禪ヲ占メ既足ナリ其座様ニ於ル舟主タルベキ  
人ハ両足ヲ立テ膝ヲ抱ヘテ座シ漁夫ハ片足ヲ立テ、座シ或ハ「アグラ」ヲ組メリ此状態  
ヲ覽テ想ヲ必スヤ故アルベクト信シ燥途南下丁着物店ニテ力蔵ニ遇フヲ幸トシ彼  
レニ濱方ニ於ケル酒宴ノ故ヲ尋ヌニ左ノ答ヲ為セリ

上原力蔵ノ直話

当地ニ方言「アグリ」ト称スル漁網ノ法アツテ「カツオ、マグロ等ヲ沢山獲ルルハ濱辺ニ  
祭場ヲ設ケ舟主方舟子ヲ集メ神酒ヲ捧ケテ舟玉様ヲ祭り報謝ノ詞ヲ唱言シテ酒  
宴ヲ開キ沖ヨリ獲シ魚ヲ肴トナス「ナレド通例ハ野菜其他ノ食物ヲ用ヒテ祝酒ヲ飲  
ミ宴訖テ一同拍手(但シ三ツ打ナリ)拜礼ノ式ヲ行フ尤モ祝宴ヲ催スルハ多獲ノ時ニ限  
リ宴中舟主ヨリ舟子ヘ賞與ヲナス慣例ニシテ乃チ目録ニ添ルニ第一ハ赤色手拭第二ハ  
赤色三尺帯第三ハ赤色種第四ハ高砂人形ノ服等ニシテ(但シ此賞ヲ与ルハ獲高ノ代  
金ニ因ル)漁術ヲ勉勵セシムル為ナリ  
此「アグリ」ト称スル漁法ハ沖ニ漕キ出テ地曳ノ如ク網ヲ海中ニ投シ水面ニ浮泳セル魚  
ヲ漁スル仕法ニシテ乃チ一隻ノ舟ヨリ網ヲ入レ一隻ハ網ヲ次第二入レツ、円形ニ漕キ廻リ  
二艘合シテ後チ網ヲ舟中ニ引上ケ獲ル仕掛ナレバ単ニ水面ヲ引キ獲ルナリ斯業ヲ為ス

ハ通例四艘ヲ以テ組合ト定メ一組ハ二隻ヨリ組成セラレ一隻ノ乗人ハ二十名ニシテ内一名  
ハ船頭(船長ノ場合)ナレバ舟子ハ十九人ナリ故ニ一組ノ人員ヲ四十名ト定ム  
(図省略)

力蔵ト問答ヲ了リ十一時過帰舎

高麗村視察

正午過八木莊二郎ト供ニ高麗村ニ赴キタル顛末ヲ左ニ記ス  
八木氏同伴ニテ寓舎ヲ出テ鐵道ニ添ヒ畑道ヲ行クニ彼方是方ノ畑地ニ祝部古器ノ  
破片散布スルヲ覽ル本海道ニ出テ小字ケハイ坂ニ至レバ右側ノ畑地ニ古塚アリ行テ  
其周辺ヲ捜カスニ遺物ヲ認メズ高麗村ニ至リ農家ニ憩ヒ唐ヶ原ハ何処ニアルゾト  
尋ヌニ老翁手指シテ曰ク我家ヨリ正面ニ見ユ畑地ハ唐ヶ原ニシテ昔シ唐人居タ  
リシト傳ヘリ次ニ高麗氏(高麗神社ノ祠堂)ヲ訪ヒ古器物一覽ヲ乞フニ所持セズトノ  
事ナレバ次ニ小嶋仙之助ヲ訪ヒ古器物一覽ヲ頼ミケレバ仙之助主シ棚内ヨリ祝部  
古器曲玉ヲ携ヘ出シ我等ノ面前ニ陳列セシム之ニ於テ八木氏ハ出所ヲ聞テ後チ其  
実形ヲ圖寫ス(此出所トハ横穴ニシテ高麗山ノ南麓ナリ)對話訖テ小嶋氏ニ導カ  
レ其出所ニ至リ横穴ヲ見ルニ山ノ中腹ニシテ三四口アレド入口ハ皆ナ雜木ヲ以テ蔽  
ハル辛シテ穴内ニ入り構造ヲ窺フニ大磯ノモノト同シ造り方ナリ畑道ニ戻リ  
小嶋氏ニ別レ「ケハイ坂」西方ノ猫塚ニ至リ視ルニ塚側ノ畑地ニ祝部破片ト墮  
輪破片アリタレバ八木氏ハ其數片ヲ拾得ヌ之ヨリ燥途ニ向ヒ停車場前ニテ  
同氏ニ別レ帰舎

本日小嶋氏ニ「ミガキ」石使用ノ有無ヲ尋ヌニ同氏曰ク当村及ヒ近郷ハ一般ニ  
詠石ヲ用ヒ俗ニ「ハチノスイシ」ト称ス云々

夜ニ入り熊坂氏來テ左ノ土俗談ヲナス

当地ニテ祠前ヘ円石ヲ奉納スルハ人々ノ信心ヨリシ尤モ詠石ハ石工ニ注文シテ造ラシ  
メ頂ト底トハ少シク凹マシアリ之レ据方ニ適スル様ニ為タルモノニテ其側面ニ奉納  
ト云ヘル文字ヲ刻セルト文字ナキノ一種アリ

「サイトバラ井」并ニ「ヤン、コッコ」ノ事

大磯町ニテハ毎歲正月十四日ニ神祭ヲ行フテ注連飾ヲ焼ク「アリ尤モ此式ヲ為  
スニ住民ニ派ニ分ルレバ自ツカラ式典ヲ別ニセシム  
農民ハ道陸神ニ酒及ヒ種々ノ供物ヲ捧ケテ祭典ヲ行ヒ後チ各戸ヨリ注連飾ヲ  
持チ來テ神前ニ積ミ日没ヨリ火ヲ付ケ焼失セシム之ヲ方言「サイトバラ井」ト称ス  
漁民ハ裸体ニテ神輿ヲ「カツギ」海中ニ入り暫クシテ陸上ニ「カツギ」揚ケ祭典ヲ行フ



蓋シ漁民二組三分レ一組ハ海中ノ「カツギ」ヲ役シ一組ハ陸上ノ役ヲナスモノニテ日没ニ至レバ各戸ヨリ注連飾ヲ持ち来リ海濱ニ積ミ上ケ火ヲ付ケ焼亡セシム之ヲ方言「ヤンノヲコッコ」ト称ス

酒匂附近土俗視察

九日午前十一時寓舎ヲ出テ同五十分大磯停車場ヲ發車シ午後零時八分国府津ニ下車シテ停車場ヨリ徒歩シ國府津駅ノ中央ニ至レバ左側ニ道隣神ノ碑アツテ例ノ田石アリ酒匂村ノ東端ニ達シ農家ニ憩ヒ左ノ質問ヲナス

問 道祖神ハ何処ニアルヤ

答 村内中央ノ左側ニアリ

問 当村ニテ俵ヲ編ムニ「オモリ」石ヲ使フヤ

答 詠石ヲ用ユ

問 「ミガキ」石ヲ使フヤ

答 草履ヲ「ミガキ」ニ丸石ヲ使フ

問 道祖神ニ田石ヲ供フアリア

答 詠石ヲ奉納セシム

此家ヲ出テ指示ノ処ニ至レバ左側農家ノ傍ニ道祖神碑アツテ礎石ノ上ニ数個ノ田石アリシ松濤園ヨリノ掃蓮酒匂小学校東隣ノ桑園ニ入り視レバ素焼赤色ノ祝部破片數置セルヲ認ム想フニ此辺ニモ曾テ古墳アリシナラム此地ノ土質タル上層黒野土下層赤粘土タリ小八幡村ニ至レバ左側(海辺ノ方)ニ松林アツテ林後ニ墓地アルヲ認ム之ヲ視ント松林ヲ過キ行ケバ濱邊ニ接シテ仮小屋アリ内ニ漁舟アツテ側ラニ人居タレバ彼レニ質問セント近カ付キケルニ村人ニアラスシテ非人ト(所謂浮浪人)思シク今や食事ノ際ニテ老人ト小供ノ二人ナリシ之ニ於テ想ラク彼ガ生活ノ状態ヲ聞カバ参考ノ一資料ヲ得ヘクト彼レノ傍ラニ座シ一札シテ左ノ問答ヲナス

問 足下ハ何所ノ者ナルカ

答 余ハ元ト沼津ノ漁夫ナレド二十余年前ヨリ非人ノ群ニ入り之レト定リタル住処ナク近年当村ニ移レリ

問 足下ハ漁夫ナレバ元住地ノ漁法漁具ト当地ノモノト差アルヲ知ルヤ奈何

答 沼津ノモノト当地ノモノト同一ナリ

問 足下ハ一兒ヲ持テルガ母ハ何処ヘ行キシヤ

答 余ト不和ヲ生シ何処ヘカ出奔セリ

問 足下羅病ノ疾腹葉スルアリア

答 通常ハ賣葉ヲ腹スレド場合ニヨリテハ「センブリ」ト云ヘル野草ヲ煎シ飲メリ

問 足下等ノ仲間ニテ婦女出産ノ時出生兒ヲ如何ニ取扱フヤ

答 婦女出産ノ刻ハ先ツ鍋ニ湯ヲ沸カシ次ニ地面ニ深サ一尺許ノ孔ヲ穿テ油紙ヲ敷キ凹ボメ之ニ鍋ノ湯ヲ注ギ溜メ分娩後之ニテ初湯ヲ為サシム

問 平日ノ入湯ハ奈何スルヤ

答 余輩ガ入浴ハ産時ト同シク孔ニ湯ヲ溜メ其辺リニ座シ手拭ニテ掛ケ湯ヲ為スノミ此仕方ハ余輩方如キ非人仲間ニハ一般ニ行ハル

問 食物ヲ求ムル手段ハ奈何スルヤ

答 人様(村民)ヨリ残飯并ニ「サイ」杯ヲ惠マレ時ニヨレバ生魚ノ臟腑又ハ酒ヲ買フアリア

問 買物ヲ為ス錢ハ奈何スルヤ

答 人様ヨリ惠ミノ錢ヲ使フ

問 足下ノ所有品ハ何々ナルヤ

答 御覽ノ如ク茶碗一ツ。土壘一ツ。曲物(飯入)一ツ。メシコ(漆工ノ漆人物)二ツ。藥ノ明環(酒入)一ツ。葉草履。煙管一本。煙草入一ツ。マッチ一。手拭一筋。アンペラ蓆一枚。小切レツ。スレスイノカンバンギ一枚。并ニ行李一個ナリ

問 行李ノ内ニハ何品ヲ入レアルヤ

答 行李ノ内ニハ鉄鍋一ツ。ブンツキ鍋一ツ。鉄一ツ。糸。針。小包一丁一ツ。蚊ヤ一。張。雨合羽一ツ

以上ノ所有品ハ行李ノ内ニアルモノト身辺ニ出シ置ケルモノニテ彼レカ財産ナリ

此間答中彼レ父子ハ書翰ヲ喰ヒツ其食物ハ飯ト味噌ナリ彼レ父子ノ服装タル父ハ五十餘オノ老人ニテ紺色腹掛ノ上ニ「カスリ」ノ単衣ヲ着シ三尺帯ヲ占メ鬚髮ノ野郎ナリ子供ハ六七才ニシテ頭ハ五分刈ニナシ古手拭ヲ縫ヒ合セタル単衣ヲ被ヘリ今や彼レガ生活ノ状態ヲ聞知シ得タレバ厚謝シテ若干錢ヲ惠ミ彼レニ別レ傍ラノ墓地ニ至レバ普通ノ墓

処ト異ナリテ種々目新ラシキモノアリ先ツ第一ニ子カ目ニ付キシハ版碑ナレバ其年代ヲ識ラント數千基ノ碑面ヲ調べシニ多クハ蘇生シテ文字ヲ讀ミ難カリシガ夫ノ讀ミ得ラレシハ皆ナ徳川時代ノ年号ニテ乃チ

万治 明治二十年ヲ去ル一二百二十八年ヨリ二百四十年前ニ当ル

寛文 明治二十年ヲ去ル一二百二十九ヨリ二百三十七年前ニ当ル

天和 明治二十年ヲ去ル一二百十五年ヨリ二百十七年前ニ当ル

元禄 明治二十年ヲ去ル一百九十五年ヨリ二百十年前ニ当ル

寶永 明治二十年ヲ去ル一百八十八年ヨリ百九十四年前ニ当ル

正徳 明治二十年ヲ去ル一百八十三年ヨリ百八十七年前ニ当ル

享保 明治三十年ヲ去ル一六六十二年ヨリ百八十二年前二当ル  
明和 明治三十年ヲ去ル一七七年ヨリ百三十四年前二当ル

等ノ文字ヲ彫刻シタルヨリ考察スルニ是年間ニハ多ク建ラレシナラン其他普通ノ石塔ヲ覽レバ皆子以降ノ年号ヲ銘スルノミ年号ヲ調ベ訖テ墓地ノ現況ヲ廻覽シテ前述ノ目新シキモノ乃チ花籠 其他ノモノ及ヒ墓碑ノ臺石ニ小石ヲ積ミアリシ様ヲ描寫(圖ニ示ス如ク)ノ際農夫來テ墓地ヲ掃除スルアレバ、彼人二問答スル左ノ如ク

問 版碑ヲ墓表ニ現今モ使用セシムルヤ  
答 昔シハ版碑ノ建シガ近クハ普通ノ石塔ヲ建ツルノミ

問 版碑石ノ産地ハ何処ナルカ  
答 此石ノ産地ハ足柄下郡根府川ナリ

問 墓石ノ側ニ立テアル「ゴロイシ」ハ何ナルヤ  
答 彼ノ小サキ「ゴロイシ」ハ児童ノ墓ナリ

問 墓側ニアル建札ハ何ナルヤ  
答 此建札ハ供養ノ為ニシテ初七日ヨリ七七日迄ノ追善佛字ヲ一度ニ書キ連テタルニテ塔婆ノ代用ナリ

問 墓側ニ建ラルル竿ノ上ニ四角小枝ヲ付シモノハ何ナルヤ  
答 此物ハ方言四道云道ト唱ヘ送葬ノ際蠟燭ヲ付クルモノニテ桃燈ノ代用ナリ

問 送葬ハ日中又ハ夜中ノ何レナルヤ  
答 当地ニテハ夜中ニ執行セシム

問 墓側ニ立ラル竹柄ノ籠及ヒ葉付竹ハ何ナルヤ  
答 竹柄ノ籠ハ花籠ニシテ葉付竹ハ追善ノ為メ建シナリ

問 普通石碑ノ臺石ニ小石ヲ積メルハ何シノ為メカ  
答 臺石ニ小石ヲ積メルハ天卒セル子供供養ノ為ナリ

問 誰方追善ノ為メ小石ヲ積ミ其譯ハ奈何ナルヤ  
答 幼稚ノ小供ハ天性ヲ嗜ミテ玩ブ故ヘ吾方子追善ノ為メ父母積メルナリ

問 当処ノ小字ハ何シト称スルヤ  
答 当墓地ハ小八幡村内小字原ト称ス

〈図省略〉

以上二回ノ問答ニ殆ント一時餘ヲ消シテ午後五時四十分國府津ニ達シ旅亭ニ休ヒ發車時刻ヲ尋ナバ七時六分ナリト之ニ於テ旧海道ヲ車行シ十俗ヲ觀察セント人力車ニ乗シテ六時國府津ヲ發シ前川村ニ至レバ農家ノ側ヲ二道祖神ノ碑アリ中川ヲ渡テ山西村ニ達セバ此

地ニモ道祖神ノ碑アリ二ノ宮村ニ至ラントスルハ左側崖下ノ濱辺ニ赤鉢巻ヲ為シタル漁夫ノ宴會ヲ瞰下シテ二ノ宮村ニ至レバ漁夫ノ部落ニシテ赤鉢巻連ノ漁夫ニ逢フ由テ村人ニ質問シテ左ノ答ヲ得タリ

当村附近ノ漁夫ハ漁獲多キハ祝宴ヲ催ス尤モ漁獲ノ多寡ニ從ヒ祝宴及ヒ賞  
与ニ數等ノ差アリ乃チ五百円以上赤手拭、千円以上赤三尺帯、千五百円以上赤下帯、一千円以上高砂翁染山ノ衣服等ニテ是等賞与ニ應シ祝儀ノ目錄ニモ差アリ云々

二ノ宮村ヨリ國府新街ニ至ラントスル松並木ノ処ヨリ左傍ヲ視レバ十餘丁ヲ隔テ北方ニ台地アリ其地勢タル石世期ノ遺物ヲ埋藏センカト想ハル仍テ車夫ニ地名ヲ尋ナハ中里村ノ台地ナリト答ヘキ國府新街ニ至レバ左側ニ松並木ノ大路アツテ奥深キ社地ナレバ何神ヲ鎮座セルヤト車夫ニ尋ヌニ六所明神ナリト答フ同村東端ニ達シ左方ヲ覽レバ數丁ヲ隔テ、景勝ノ畑地アツテ附近ノ地盤ヨリ小高キ丘ヲナシ老松点生ノ間ニ農家散在シ奈何ニモ優勢ノ地ナレバ若シヤ國府ノ遺趾ナランカト追想セラル國府本郷ヲ過キ西小磯ヲ經テ台丁ニ達シ下車シテ徒歩シ七時寓舎ニ歸ル  
本日酒匂大磯間ニテ覽タル道祖神碑ノ種類左ノ如シ

〈図省略〉

### 大磯盆踊視察

八月十六日午後海辺遊歩ノ帰途南下町通過ノ際女兒ノ「サ、ラ」ヲ鳴ラシ太鼓ヲ打チテ三々伍々隊列ヲ組ミ練リ歩ユムヲ視タレバ予ガ寓舎ニ招キ彼輩ノ踊ヲ覽ント熊坂氏ニ頼ケレバ午後七時過熊坂氏娘輩ノ一組ヲ卒ヒテ寓舎ニ來ル庭内ニ導キ踊ヲ演セシム其踊ノ様ヲ記スル左ノ通り

踊ノ動作ニ於ルニ一様ノ舞度ヲ為シ歩調ヲ整ヘ歌ヲ唱ヘツ、樂器ヲ奏シテ四拍ニ迴歩ス(第一圖ノ如ク)樂器トハ小太鼓ト「サ、ラ」(第二圖)ノ一器ニシテ太鼓打ガ太鼓ヲ打ツニ其響

「ト、ト、ト」(一回)「サ、ラ」ハ之ニ和スルニ「サザンザン」(一回)ト調子ヲ合セ其太鼓ト「サ、ラ」ハ同時ニ鳴ラサレ或ハ別々ニ鳴ス尤モ太鼓ヲ打ツハ唱歌ノ發端ニ強ク終句ニ弱シ「サ、ラ」ハ平等ニ「スラル」太鼓ト「サ、ラ」ノ持子様ヲ述ニ太鼓打ハ左手ニテ小太鼓ヲ持子胸

前ニ捧ケ右手ニ小棒ヲ持チテ之ヲ打チ「サ、ラ」ハ両手ニテ「サ、ラ」兩端ノ緒ヲ握キリ腹ノ前面ニ捧ケ左右ヘ屈伸放延セシメツ、「スル」ナリ筒様ノ動作ニテ迴歩スルヲ殆ンド

一時間許リ數十曲ヲ奏舞シタルニヨリ其唱歌演舞ヲ止メシム

彼輩ハ十年以上十六年以下ノ小娘ニシテ髪ハ「銀杏返シ鬘」衣服ハ「單衣ニ帯ヲ占メ手纏ヲ懸ケ」足ニハ駒下駄ヲ履ケリ

此一組ハ物貫十六人ニシテ内五人ハ「サ、ラ」十一人ハ太鼓打ナリ

其姓名ハ

鈴木フク	真間キン	平田シマ	小嶋サク	鈴木ノブ
齋藤ツマ	鈴木ハナ	真間カツ	宮代キノ	木村ロク
古沢タケ	飯田カン	鈴木トメ	高橋キノ	加藤トメ
加藤トヨ				

此者ノ内ニテ孰練者ト思シキ二人ニ質問スル左ノ如ク

問 足下等ノ内ニ音歌取アリヤ

答 十六人ノ内ニテ五人ハ音歌取ナリ

問 歌曲ノ文句ヲ唱ヘ聞セヨ

答 妾等方謡ヒシ文句ヲ唱ヘ聞スベシ

之ニ於テ娘一人ニ謡セツ、傍ヨリ文句ヲ筆記スル二三ハ左ノ如シ

一 「マハルク、く、ミナサン、マルク、コレホドシロイ、コテンノオニワニ、コレホト

シロイ、ゴテンノオニワニ、ヤレセジヨ、オセマヤ、シロゴザニ、く。」

二 「マルイタマゴハ、キリヨデシカク、モノ、ユイヨデ、カドガタツ、く。」

三 「オナツラウチデハ、ナニシヨウバイヨ、コジキヲトメテ、シギヨウニデタラ、

シギヨウデクワレヌ、オナツラウチデ、コレデモ、オナツハ、デシヤバルナ。」

四 「オラクラウラデ、ヨルナクトリハ、トリジヤゴザラヌ、イロオトコテゴザル、

オラクニ、デロデロ、デロトナリ。」

〈図省略〉

以上ノ文句ヲ聽キテ娘等ヲ退散セシメ熊坂氏ニ質問スル左ノ如ク

問 此踊ハ毎歲執行スルヤ

答 往時ヨリ毎歲七月十四十五十六ノ三日間ニ行ヒ来リシガ陽曆ニ改リテヨリハ一ヶ月延

ハシ八月十四十五十六ノ三日ニ行ハシム

問 踊子二組ノ人員ハ奈何

答 踊子二組ノ人数ニ定ナシ乃チ大組ハ二十人中組ハ十五六人小組ハ十二人ナリ

問 今夜連レ来リシ娘等ハ何者ノ兒ニシテ住地ハ何所ナルヤ

答 山王丁ニ住スル農夫ノ娘ナリ

問 当地ニテハ一般ニ女子踊ヲ習踊スルヤ

答 商家ニテハ子女ニ習踊ヲ禁スレド漁夫農夫ノ子女ハ一般ニ踊リヲ習フナリ

問 是踊リハ当国内一般ニ演スル習慣ナルヤ

答 余方知レル場所ハ大住陶綾ノ一郡ニシテ其他当国ノ他郡ニアルヤ否ヲ知ラズ

今ヤ熊坂氏方連レ来リシ踊子二組ノ演舞ヲ覽テ其状態ノ一端ヲ窺ヒ加フルニ娘等及ヒ

熊坂氏ニ質問シテ歌唱ノ文意并ニ踊リ習行ノ地域ヲ知得スルハ之レ偏ニ熊坂氏ノ盡力

ナレバ厚謝シテ同氏ヲ帰宅セシメ而テ町内ニテ演スル状況ヲ比較視察セント九時過寓舎

ヲ出テ南下町ニ至リ視タル踊リノ状況ハ左ノ如シ  
南下町ノ空地ニ今ヲ盛リト演シツ、一組八十餘人ニシテ円形ニ左歩シ一組八五六人ニテ円

形ニ右歩シ唱歌ノ發声ト太鼓サ、ラノ鳴響ト相ヒ和シ各藝ヲ競争セシム其歩様ハ圖  
ノ如ク

〈図省略〉

娘等ノ容姿服装并ニ見物人ノ状態

娘等ノ或者ハ手拭ヲ冠リテ単衣ヲ着シ帯ヲ占メ手纏ヲ懸ケ裾ヲ腰辺ニ折り返シ臚ヲ  
頭ハシ跣足ナリ或者ハ頭上ニ冠物ナク浴衣ニ手纏ヲ懸ケ帯ヲ占メ草履又ハ駒下駄

ヲ穿テリ  
斯ル有様ニテ娘等ガ熱心ニ踊レルヲ旅客見物シ殊ニ踊子ノ周辺ニハ他丁ノ踊子ト若者ト

ガ群集シテ是等ニ組ノ演舞ヲ妨害中止セシメント惡口雜言ヲ吐キツ、小石ヲ投ケ將ニ  
喧嘩ヲ仕カ掛ケン穩ナラヌ挙動ヲ出頭セシム

之レ南下丁ニ於ケル現状ナレバ何方基因アント思ヒツ、濤龍館ノ方ハ南歩スルヤ遇然老  
母ノ娘二人ヲ従ヒ行ケルヲ視タレバ参考ノ一助ニモナラント尾行シナカラ彼等ノ様子ヲ窺フ

ニ老母ハ左手ニ「サ、ラ」ヲ持チ右手ニ「テ」一人ノ娘ノ手ヲ携ヘ何方話ヲ為シツ、(想ニ踊ノ噂ナ  
ラム)他ノ一人ノ娘ハ太鼓ヲ携ヘ跣足ナリ其素振ヲ察スルニ娘ノ負傷ナキ内ニ家路ヲ指

テノ帰途ト思レシ彼等ニ尾行シテモ能キ事柄ヲ聞カザルニヨリ南下丁ヨリ本丁通ヘノ  
横丁ニテ盆踊ヲ習フテ演スルハ漁夫ノ娘ニシテ彼レハ一歳中晴レノ場合ト心得數月

当地ニテ盆踊ヲ習フテ演スルハ漁夫ノ娘ニシテ彼レハ一歳中晴レノ場合ト心得數月  
前ヨリ町内ヲ練リ廻テ下稽古ヲナシ当日ニ至レバ町々ニテ娘等組合ヲ設ケ定メノ

場所(毎歲同シ処)ニ集リ盆踊ヲ演ス乃チ南下丁ハ濱辺ノ空地、北下丁ハ道祖神ノ  
境内ト之レ主タル場処ニシテ其演舞ヤ歌ヲ謡ヒ樂器ヲ鳴ラシ極端ニハ半日相互

問ニ視タル事柄ヲ種トシテ惡口ヲ吐キ募リ踊姿ヲ喧嘩トナレバ娘等ノ父母赴キ  
テ之ヲ仲裁セズ却テ加勢ノ雜口ヲ言ヒ合フヨリ遂ニハ娘等ノ父母兄弟共ノ大喧嘩

ヲ演出セシメテ踊リノ狂ヲ結ブハ毎歲ノ常例ナリ嗚呼愚キ習俗ナレハ商家ノ子女  
ニハ決テ盆踊ヲ為サシメズト哭笑セリ

主婦ニ厚謝シテ十時過寓舎ニ帰ル  
海濱ニ於ル視察

十七日午後海水浴場附近ヲ遊歩ノ際砂中ヨリ圖ノ如キ有孔石ヲ拾フ

〈図省略〉

又夕砂上ニ長繩數十筋于セルアリ之ヲ覽ルニ其末端ニ大ナル針アリテ「アギ」アルト「ナキ」ノ二種ニシテ針ノ緒付ヨリ一尺許ノ間ハ「ハリガ子」ヲ巻ケリ圖ニ示スガ如シ

〈図省略〉

遇マ漁夫ノ来ルアレバ此針ハ何魚ヲ獲ルニ用ユルヤト問ヘバ彼レ曰ク鮫ヲ漁スル「ハハ」繩ニテ丈ケ數目尋アリ其緒付ニ「ハリガ子」ヲ巻ケルハ喰ヒ切ラレザル為メ何トナレバ鮫ノ齒ハ鋸ノ如ケレバ之ヲ防ク云々其餌ニ、イカ、サバ、ノ二魚ヲ用ユ二十日

午後西小磯ノ畑中ヲ過ルル村童ノ芽ヲ刈ルヲ見タレバ其故ヲ問フ彼レ曰ク之ヲ刈リテ蓆ニ編ミ蕎麦温飴ヲ調理スル用ニ備フ云々二十五日

熊坂氏来テ過日依頼ノ土俗器ヲ贈ラル其目左ノ如シ

- 一 円石 一個 旧持主 北下町 道祖神境内
- 一 サ、ラ盆踊用一ツ 同 同 石塚忠太郎
- 一 鮫スリバリ 二ツ 同 同 尾崎三四郎

〈図省略〉

- 一 碇 一挺 旧持主 南下町 二宮平七
- 一 モリ 一挺 附矢先手繩添フ 旧持主 北下丁 山下金七

〈図省略〉

次ニ予カ過日海辺ニテ拾ヒシ有孔石ノ譯ヲ熊坂氏ニ尋ヌルニ左ノ荅ヲ為ス当地住民ハ耳病ニ罹レルハ全癒祈願ノ為メ海濱ヨリ形ノ宜シキ丸石ヲ拾ヒ来テ小孔ヲ穿チ糸ヲ通シテ後手携ヘテ小磯宇賀神社ニ詣テ宮ノ扉又ハ鴨居ニ懸クルノ常俗ナレバ思フニ其石ナラン云々  
午後磯崎治右門方ニ至リ同人ト對話ノ刻子供一人小形ノモリ矢先ニ八九寸位ノ小魚ヲ貫キ携ヘ帰ルアリ之ヲ見テ治右門ト問答スル左ノ如シ

問 此子供ハ誰ノ子ナルカ

荅 我方孫ナリ

問 此小形モリ矢先ニ魚ヲ貫ケルハ子供ノ戯レカ

荅 我方倅ハ「ムグリ」ヲ營業ニシテ日々海中ニ入り鮑採ヲ為ス故ヘ護身用ト

シテ小形「モリ」ヲ携フ夫レヲ孫カ持チ帰タルモノナレバ玩具ニアラス

問 護身用トシテ「モリ」ヲ携フハ何シノ為カ

荅 海中ニ潜リ鮑ヲ採ルル種々ノ魚集リ来テ裸体ヲ噛ムノ患アレバ之ヲ防カン為メ「モリ」ヲ携フ若シ来ルアレバ突刺スナリ

問 海中ニテ「モリ」ハ奈何ニ持ツヤ

荅 柄ニ付ケシ緒ヲ肩ニ掛ケ居リ魚来レバ身構シテ突ナリ

問 此「モリ」ニテハ何尺位ノ魚ヲ獲ルカ

荅 此「モリ」ハ通例ノ長サナレバ尺五六寸以下ノ魚ヲ突キ得ルニ堪ユ

右ノ問答終テ「モリ」一本ヲ讓受ケ其圖左ノ如シ

〈図省略〉

磯崎方ヲ出テ海辺ニ赴シニ漁舟ノ帆掛シテ沖ヨリ帰来セルヲ覽ル着岸ノ後子奈何ニシテ舟ヲ曳揚ルカト砂上ニ佇ミ之ヲ見居リシニ夫ノ着岸スルヤ舟子共砂上ニ置キシ「ス」ヲ汀ニ持チ行キ舟底ニ入レバ舟中ノ舟子飛下ツテ網ヲ砂上ヘ引張ルヤ陸上ニ待チシ舟人群カリテ談網ヲ曳クト共ニ又夕舟中ノ舟子ハ飛下テ艫押木ニ肩ヲ懸ケ「エーヒ、エーヒ」ノ掛声ヲ發シ砂上ニ舟ヲ揚ケシム之ヲ覽テ海水浴場ヘ赴ク途中砂上ニ据ヘアル舟ノ種類ヲ通覽スルニ約子左ノ如ク

- 一 漁舟 長五間巾六七尺
  - 附屬具 帆柱一本 艫押木百五ヶ処(両側ニ各一ヶ処艫ニ壹ヶ処)
  - 艫五挺各長三間 釣竿及ヒ「モリ」ヲ懸ル又木四本(両側ニ二本ツ)
  - 梶一挺 丸太若干 碇若干 浪汲登岸十
- 一 タブ子(小舟ナリ) 長八九尺巾三尺
  - 附屬具 艫一挺 艫押ヘソ一ヶ処(艫ニアリ) 碇一挺
  - 浪汲器一個

〈図省略〉

是等ヲ視テ帰途漁夫ノ子供ヨリ玩具ノ小舟ヲ讓受ケ左圖ニ示セル如シ

〈図省略〉

小磯村土俗再調査

八月廿七日西小磯ノ村口ニ赴キシニ右側松樹ノ下ニ佛像ヲ彫刻セル碑及ヒ石塔并ニ注連ノ在ルヲ認メシヨリ傍ノ農家ニ付キ尋子バ主人曰ク石像ハ村民尊信ノ道祖神ナレバ毎歲注連飾ヲ捧グ後子焼亡セシメバ其残片ナリ云々之ニ於テ参考ノ料ニセント欲シ石像其他ヲ圖寫スル左ノ如ク第一圖ハ道祖神ニシテ版石ニ佛像ヲ彫メルモ第二圖ノ如キ石ト第三圖ノ如キ石ハ版石ノ側ニ積ミアリ此物タル石塔ノ一部分ナ

レバ農夫ノ畑ヨリ掘り来テ置キシモノナラン想ニ鎌倉時代ノ石塔ナルベシ是等ヲ見  
了テ伊藤邸南方ノ小路ヲ行ケルニ土工ノ人夫濱方ヨリ石ヲ畚ニ入レ運ブニ逢フ

〔図省略〕

其畚ヲ視ルニ「田の字」形ニ藤蔓ヲ曲ケシモノニテ第四圖ニ示ス如ク誠ニ簡便ノ作方  
ナリ小路ヲ過ギ松林ヲ経テ濱手ノ砂山ニ登レバ頂ニ納屋アリ之ヲ覽ルニ異様  
ノ構造ナレバ先ツ後面ノ様ヲ圖寫(第一圖)シテ其前面ニ廻レバ入口アリ之ニ於テ前  
面(第二圖)ヲ寫シテ屋内ニ入り内側ヲ視ル際何方ヨリカ村童来テ予カ拳動  
ヲ窺フ次テ山下ノ汀ヨリ漁夫二人登来テ誰何ス之ニ對シ予ハ荅ヘ曰ク大磯滞在  
ノ者ニテ海辺遊歩ノ途次遇々此舎ヲ視タレバ學問上ノ参考ニ見居ナリト述ルニ  
彼レ二人安心シテ休フ倚テ彼人ト問荅スル左ノ如シ

問 当舎ハ何ノ為ニ設シヤ

荅 漁具ノ置場ニ建設ス

問 舎号ハ何ント称スヤ

荅 納屋

問 当舎ヲ建築ニ何材ヲ用シヤ次ニ建方ハ奈何ニセシカ

荅 当舎建ントスルニ臨ミ先ツ第一ニハ砂中ニ数ケ処ノ孔ヲ掘リ根入ニ尺許ニ

丸太ヲ建テ桁梁等ヲ加ヘ棟木ヲ載セ屋形ヲ造リ其材ニハ栗丸太及ヒ丸竹

ヲ用ヒ屋根及ヒ側壁ノ部分ニハ栗莖ヲ用ユ

問 屋根ヲ葺クニ粟ノ根株ヲ外面ニ頭ハシ又夕側壁ヲ覆フニ栗莖ヲ倒シ

マニスルハ何ノ譯合ナルヤ

荅 屋根ヲ葺クニ根株ヲ外面ニ出セルハ水コケ能クシテ腐ラザル為メ又夕側

壁ヲ覆フニ栗莖ヲ倒シマニスルハ久シキニ堪ヘシムル為ナリ

問 当舎ヲ見張齋屋ト思シニ左ニ非シテ漁具置場ナレバ夫ノ備フルモノハ何

品ナルヤ

荅 当舎ハ網置場ニシテ舎内ニ積メルハ繩及ヒ麻糸ニテ造リシ地曳網及ヒ

細布ノ袋網ナリ

問 細布網ハ何魚ヲ獲ルニ用ユルカ

荅 白魚(方言シラス)ヲ漁スルニ用ユ

問 地曳網ハ何魚ヲ獲ルニ使ワヤ

荅 雑魚ヲ漁スル為ナリ

問 当地ニテ麻網ヲ染ムル料ニ何ノ汁ヲ用ユルヤ

荅 柏皮ノ煎汁ヲ以テ染ムルナリ

問 地曳網ニ用ユル繩ハ何品ナルカ

荅 稲葉ノ葉ヲ去リシ莖ニテ繩ニ撚リシモノナリ

問 地曳網ノオモリ石ヲ繩ニテ編メル仕方ヲ見タシ

荅 易キ業ナリト云ヒツ、砂中ヨリ小石ヲ拾ヒ莖繩ヲ以テ編ミ付直ニ一個ヲ呈ス

問 当地ニテ海面ヨリ高キ砂原ニ舟ヲ置ケルハ何ノ譯ナルカ

荅 平常浪靜ナルハ海汀ニ置ケド風雨ノ兆アル節ハ之ヲ防シ為メ当舎

後方ノ松林砂原ヘ揚ケ置キ恆ニ苦ヲ以テ覆ヘリ其舟ヲ海汀ヨリ曳上ケル仕

方ハ先ツ舟底ニ「スラ」ヲカヒ次ニ二軸ニ繩ヲ結付ケ山上ニ居ル数人之ヲ引クヤ

舟端ニ居ル数人ハ艫又ハ側ニ肩ヲアテガイツ、押上ケ遂ニ砂山ヲ越シテ

松林中ニ据シム

問 シケノ際高浪ハ当舎迄打上ルアリヤ

荅 非常ノ「シケ」ナレバ当舎迄浪ヲ延ボシ次テ濱砂ヲ吹上ケ松林ヲ被フアリ

問 強風ノ時ハ砂ヲ何ツ方迄吹キ飛スヤ

荅 停車場附近ノ地迄モ延ボシ就中濱手ハ一層烈ケレバ海辺ヘ向ヘル松樹ノ枝

幹ハ之カ為メ傷害セラル

以上ノ如ク問荅シテ知得スルニ寡ザレバ厚謝シテ漁夫ニ別レ砂山ヲ降ツテ海汀ヲ歩ム

数丁ニ延ビ後方ヲ顧レバ納屋ノ地位ヲ望ムニ適當ノ距離ナルニヨリ砂上ニ竹ミ其眞

況ヲ圖寫(第三圖)シテ鳴立澤ノ汀ニ至リ玩具用ノ小舟ヲ拾フテ寓舎ニ帰ル

〔図省略〕

大磯土俗ノ概略

冠物

商民ハ帽ヲ用ヒ農民ハ笠等及ヒ手拭ヲ被リ漁民ハ竹皮笠ヲ被リ或ハ手拭ヲ

鉢巻ニ為ス

衣服

商民ハ普通ノ衣服ニシテ農夫筒袖短衣ト股引ヲ用ヒ漁夫ハ筒袖ノ長衣ニ

三尺帯ヲメ勞働ノ際ハ腰褌ヲ着シ又ハ裸体ナリ

雨具

商民ハ傘ヲ用レド農漁ノ二民ハ簑ヲ着ス

履物

商民ハ雪駄、駒下駄、足駄等ヲ用レド勞働者ハ素跣ニシテ農民ハ「ワラジ」、足中、

ヲ履キ漁夫ハ素跣ナリ

家屋

商民ハ小田原葺又ハ瓦葺ノ屋ニ住シ農民ハ葺葺ノ屋ニ住ス其間取方

ハ第一圖ノ如ク漁民ハ小田原葺ノ陋舎ニ住居ス第二圖ノ如シ

飲料水

〈図省略〉

飲料ニ用ユル水ハ井戸水ニシテ井戸ノ構造ハ鎌倉地方ト同ク深底ヨリ上側迄テ

角石ヲ積上ケ又ハ円石ヲ累築セシハ地質薄弱ナレバ之ヲ防ク為ニ設ケシモノニ

テ其上部ノ側ニ丸太木ヲ井桁一組ミ或ハ角石ヲ円形ニ成シム第三圖第四圖ハ乃チ

井戸構造ノ断面ヲ示ス

食物

商民ハ米飯ヲ農民ハ米粟ノ混合飯ヲ漁民ハ米麦ノ混合飯ヲ常食トシ其ノ

副食物ニ魚貝海藻ト蔬菜ヲ用ユ

燃料

落葉(松葉) 流木(浪ノ為ニ打上シモノ) 畑作物ノ枯幹及ヒ株根、柴等ヲ用ユ

運搬具

小荷車、荷馬車、天秤、イチコ薬ニテ作る(図省略)、ヤセンマ(図省略)、草如籠

(前文ニ掲ケシ薬製ノ品ハ方言名ヲ知ラサルニヨリ仮ニ磐城方言名ヲ借字セシム)

宗旨

漁民ハ海神ヲ祀リ農民商民ハ道祖神及ヒ稲荷ヲ祭ル

子供ノ遊戯

漁民ノ子供ハ海汀ニ集リ競フテ玩具ノ小舟ヲ浪ニ浮ベ帆走ノ工合ヲ評ス(此小舟

ハ父兄ノ手作ニシテ丸木ヲ蓋チテ船身トシ中央ニ柱ヲ建テ帆ヲ懸タルモノ) 又夕

磯ヲ涉テ小魚ヲ釣り或ハ手捕シテ後チ砂上ニ團座シ流木ヲ焚テ獲魚ヲ

火中ニ投シ焼了テ之ヲ食フ女子ハ砂上ニ輪座シテ小石ヲ玩フ一恰モ「オテダマ」ノ

如クス

方言

アルカ(アンメイ) 行ク(イクベイ) イツイクノカ(イツイクノサヨ) 「サヨ」ハ凡テ語尾ニ用ユ

海濱(スカ) 父母予カ子ヲ指テ「ワレ」ト呼フ